

〈大会報告〉

言語教育センター主催 第3回英語暗唱大会 大会報告および今後の課題

濱奈々恵、銅堂恵美子、コリン J. トンプソン、山田泉

要約

西南学院大学では2013（平成25）年度から、毎年冬に言語教育センター主催による英語暗唱大会を開催している。今年度は12月の第2水曜日に大会を実施し（例年は12月の第1水曜日に実施）、教職員が一体となって大会当日まで、運営に関するミーティングや出場者への個人指導を重ねた。また今年度は南雲堂出版様の御協力を賜り、例年以上に充実した大会を実施することができた。本稿は英語暗唱大会までの事前準備・事前指導の様子、大会当日の様子、そして学生から集めたアンケート調査の結果を分析・考察し、来年度以降の大会に活かすための報告である。

1. はじめに

言語教育センターでは、2013（平成25）年度から毎年冬に英語暗唱大会を開催することとなり、今年度で3回目の開催を終えた。この大会を計画し、実行するにあたっては主に3つの経緯がある。西南学院大学には「英語で何かを話したい」と思っている学生が多く、実際、本センターで実施している語学実習には毎年、英会話への参加希望者がかなりの割合を占めている。ところが実際に英会話のコースを始めていくと、自分で文章を組み立てられる学生とそうではない学生が混在しており、場合によっては自信のなさから発言そのものを躊躇する学生も出てくる。そこで、第1に「英語の会話やスピーチは苦手だが、上手になりたい」と思う学生に、英語で話すことに慣れてもらうこと、第2に本学ではESS主催のスピーチコンテストがあるため、本センターではこのコンテストとは異なる大会を開催すること、第3に本センターでは2009年度から中国語暗唱大会が行われていたため、同様に英語でもスピーチではなく暗唱を主とした大会を実施することとなった。

英語暗唱大会は2部構成となっており、それぞれの部における参加資格者を以下のように設定している。

第1部：英文学科、外国語学科英語専攻以外の学生

第2部：①英文学科、外国語学科英語専攻の学生

②英文学科、外国語学科英語専攻以外で、長期間（3か月以上）海外滞在経験のある学生

③その他希望する学生

暗唱課題としてそれぞれの部に「映画の一部」と「著名人が行ったスピーチ原稿の一部」

を用意した。また第1部に対しては、出場する学部の多様性を考慮に入れて、「日本の昔話」と一部改編した「ニュース原稿」を加えた。各部門の課題文は、第1部で300語以内（3分程度）、第2部で450語から500語以内（5分程度）として分量の統一を心掛けたが、内容の難易度も課題選定の際の判断材料とした。その結果、今年度の課題は以下のようになった。

第1部

- ① JFK. Inaugural Address (1961)
- ② Romeo and Juliet (1996年版映画、バルコニーのシーン)
- ③ Queen Elizabeth II Poised to Be Britain's Longest Serving Ruler (VOAより)
- ④ Momotaro (NHK講座、Enjoy Simple Englishより)

第2部

- ① Martin Luther King Jr. Lincoln Memorial, Washington (1963)
- ② Will Smith's 10 Rules for Success
- ③ J.K. Rowling. Harvard Commencement Speech (2008)
- ④ Guess Who Is Coming to Dinner (父親のスピーチの一部)

2. 事前準備と事前指導

第3回英語暗唱大会を開催するにあたって、今年度は以下のようなスケジュールで進めた。

7月29日	第1回ミーティング【大会実施の趣旨、スケジュール確認】
9月11日	第2回ミーティング【暗唱課題決定】
9月14日	後期授業開始
9月24日	参加募集受付開始（参照：資料1）
10月23日	参加募集受付終了
10月27日	第3回ミーティング【出場者選抜、決定】と出場者発表
10月28日	指導スケジュール配布（～30日まで）
11月2日	個人指導開始（～12月4日まで）
12月9日	第3回英語暗唱大会実施

昨年度と同様に、今年度も本センターに所属する教員や非常勤講師に対して、本大会に関する資料を提供した。また学内でのポスター掲示や本センター入口の電子掲示板なども利用して、学生への宣伝活動を徹底した。1か月にわたる募集期間の後、各部門のレベルや趣旨に合う学生を選抜（第1部15名、第2部13名）して、出場者に通知した。

出場者に対しては大会に関する資料を事前に提供した。審査の公平を期すため、個人指導の期間（11月2日～12月4日）、指導回数（1人2回まで。本センター所属の教員に個人で連絡を取ってオフィスアワーを利用する、または非常勤講師に直接お願いする）、

および指導時間（1回につき20分）に関するルールを出場者に周知徹底した。また発表のルールと審査項目も事前の配布資料に加え、出場者の不安が解消されるように努めた。

3. 大会実施

2015（平成27）年12月9日（水）15時30分から、4号館101教室において第3回英語暗唱大会を実施した。第1部については出場予定者15名のうち、事前辞退者が2名、欠席者が1名で計12名、第2部については出場予定者13名のうち、事前辞退者が2名で計11名、合計で23名の出場者が大会に臨んだ。開会式において、再度説明したルールは以下の通りである。

1. 発表を始める前に、名前、学部・学科、暗唱テーマを英語で述べる。
2. 暗唱がストップした場合、2回までヒントをもらうことができる。その場合は必ず、「Helpカード」を提示すること。
3. 暗唱を続けられないと判断した場合は、「Give Upカード」を提示すること。
4. 審査項目は8項目（各項目5点）で40点満点とする。審査員3名による審査を受け、120点満点で順位を競う。審査項目は「暗唱度」「内容理解度」「声の大きさ」「速さ」「抑揚のつけ方」「発音の正確さ」「姿勢や態度」「表現」とする。（参照：資料2）

当日の審査員は外部の日本人講師1名、本学所属の日本人講師1名と外国人講師1名の計3名が勤めた。第1部では、① JFK Speech に2名、② Romeo and Juliet に3名、③ Queen Elizabeth II に4名、④ Momotaro に3名の出場者が挑戦し、一方、第2部では、① Martin Luther King Speech に5名、② Will Smith Speech に3名、③ JK Rowling Speech に3名の出場者が挑戦した。出場者によってはヒントを受けながら暗唱を進めることもあったが、ほとんどの出場者が最後までスムーズに暗唱を行った。およそ2時間にわたる大会の結果、第3回英語暗唱大会の入賞者は以下のように決まった。

【第1部】	1位 児童教育学科3年	【第2部】	1位 外国語学科（英語）1年
	2位 外国語学科（仏語）1年		2位 外国語学科（英語）1年
	3位 外国語学科（仏語）1年		3位 外国語学科（英語）4年

4. アンケート調査の結果と今後の課題

英語暗唱大会の当日に、出場者23名に対してアンケート調査を実施した。質問は全部で7項目あり、実際のアンケート用紙およびデータは巻末に資料3および資料4として添付している。ここではアンケート調査の結果を大まかにまとめ、反省点と今後の課題を考察していく。

まず、英語暗唱大会の開催についてどのようにして情報を得たかと尋ねたところ、「SAINSポータルを見て」と「教員に聞いて」が特に多かった。アナウンスの時期、課題数（数

と種類)、課題の長さについては、それぞれ概ね「適切だった」との回答を得た。暗唱課題については例年、希望者が多い「映画のセリフ」や「有名人のスピーチ」に加え、「詩や小説の一部」、あるいは「歌詞」が増えていることが分かった。

オフィスアワーの利用については「時間が合わなかった」という理由で、個人指導を受けなかった学生が多かった。実際、2回の指導を受けた学生は23名中2名、1回の指導を受けた学生は23名中3名いた一方、全く指導を受けなかった学生が23名中18名にのぼった。しかし大会当日の様子から判断すると、出場者はそれぞれ何らかの方法で練習を重ねて大会に臨んでいたと思われる。実際、9名の学生は「他の人(先生や友人)を相手に練習する機会があった」と回答し、また4名の学生は「音声ファイルや動画・映画があったので、それで十分だった」と回答している。オフィスアワーを利用した5名の学生に対しては、個人指導の時間(20分)が適切であったか判断してもらった。「適切であった」と答えた学生が4名、一方「短かった」と答えた学生が1名となった。昨年のアンケート調査でも「短かった」と答えた学生は7名中わずか1名であったため、改善の必要はないものと判断している。

最後に暗唱大会への感想や意見など、自由に記述をしてもらった。多くの出場者は「刺激」「達成感」「良い機会」などの表現と共に、肯定的な反応を示した。アンケート調査の結果から、大会当日までの準備期間中に、生活の一部に英語暗唱の時間が組み込まれた学生がいたことや、本当ならばもっとうまくできたのではないかと悔しさをにじませる学生がいたこと、また来年度の出場に意欲を示した学生がいたことは、暗唱大会を実施した側にとっても大きな収穫であった。

その一方で、今回の暗唱大会では次の2点において、改善の必要があると考えられる。1つは暗唱課題に関するもので、もう1つは「Helpカード」に関するものである。まず、暗唱課題についてだが、今年度は本センター所属の教員がそれぞれ、1つのジャンルを担当して課題を決めるという形式を取った。例えば教員Aが「著名人が行ったスピーチ原稿の一部」を準備し、教員Bが「映画の一部」を準備するとした。そのため、一人の教員が準備できる課題が初めから1～2点しかなく、少ない選択肢から課題を選定するという事態に陥った。次回は全教員が全ジャンルの課題を準備し、今回よりも多い選択肢の中から最適なものを選び出せるように注意をする必要がある。また選んだ課題に対して、難易度を☆(星マーク)の数で表記するなどの工夫も検討する必要がある。

もう1つの「Helpカード」に関してだが、これは昨年の反省を踏まえて導入したルールである。前回の大会で、暗唱が止まった学生に対して助け舟を出すと説明していたが、ヒントを出す側とヒントをもらう側との間でタイミングがはかりづらい状況が幾度か生じた。そこで今回から「Helpカード」を導入し、それによって意思表示をってもらうように促した。ルールを決めた側としては、上限2回の「Helpカード」を使い切り、それでも暗唱がストップした場合は「Give Upカード」を掲げて終わることを予定していたのだが、「Helpカード」の使用をためらって、何度も沈黙が続く事態に陥ってしまった。そのため次大会からは、「Helpカード」の上限を失くし、スムーズな暗唱を重視することとし

たい。ただし、「Help カード」の使用に応じた減点方式、あるいはある程度の回数を超えた場合は、採点対象から外すなどの対策を取り、そのルールは採点者の間だけで共有する旨、検討する。

言語教育センター主催の暗唱大会はまだ取り組み実績が浅く、またセンター内の教職員の入れ替わりも起こりやすいため、手探りの状態が続いている。しかし回を重ねるごとに改善点を見出し、次年度に活かしていくことでさらに良い取り組みになると考えている。末尾ながら本センターの暗唱大会に理解を示し、共催としてご協力いただいた南雲堂出版様、審査員の冬野美晴先生（九州大学芸術工学研究院）、鳥越千絵先生（西南学院大学文学部外国語学科英語専攻）、非常勤講師の先生方、学生スタッフの武田頭磨さん（経済学部国際経済学科3年）、石田美紀さん（文学部外国語学科英語専攻4年）、そして勇気を出して暗唱大会に参加してくれた出場者のみなさんに、心から感謝申し上げます。

第3回 英語暗唱大会開催!

The 3rd English Recitation Contest

2015年度 学内暗唱大会を以下のとおり開催します。
皆さんの参加をお待ちしています!!

開催日: 2015年12月9日(水) 15:30~18:00(予定)

場 所: 西南学院大学 (4号館 101教室)

参加資格: 第1部 ・英文学科、外国語学科英語専攻以外の学生

第2部 ・英文学科、外国語学科英語専攻の学生

・英文学科、外国語学科英語専攻以外で、長期間(3ヶ月以上)
海外滞在経験のある学生

・その他希望する学生

暗唱テーマ:

【第1部】

1. スピーチ「JFK. Inaugural Address (1961)」の一部(294 words)
2. 映画「ロミオ&ジュリエット(1996)」のワンシーン (220 words)
3. ニュース原稿「Queen Elizabeth II Poised to Be Britain's Longest Serving Ruler」の一部 (265 words)
4. 物語「Momotaro」(482 words)

【第2部】

1. スピーチ「Martin Luther King Jr. Lincoln Memorial, Washington (1963)」の一部(480 words)
2. スピーチ「Will Smith's 10 Rules for Success」の一部(509 words)
3. スピーチ「J.K. Rowling. Harvard Commencement Speech (2008)」の一部(499 words)
4. 映画「招かれざる客(1967)」から父親のスピーチ (475 words)

※ 本文、音声データを SAINS ポータル、または言語教育センターHP で確認し選択してください。

申込〆切: 10月23日(金)


申込方法: 言語教育センター事務室で申込書に記入し、提出してください。

参加者発表: 10月28日(水)に言語教育センター掲示板、SAINS ポータルで発表。

表彰内容: 各部上位3名に賞状と副賞を授与します。(参加者全員に参加賞があります。)

問い合わせ先: 西南学院大学 言語教育センター事務室
TEL. 092-707-0100

e-mail: langeduc@seinan-gu.ac.jp

 西南学院大学

【言語教育センター事務室】

CONTEST EVALUATION SHEET

Name of Performer: _____

Title: _____

Ratings

- 1: Poor
- 2: Below Average
- 3: Average
- 4: Very Good
- 5: Excellent

	Poor	<	Average	<	Excellent
Memorization (暗唱度)	1	2	3	4	5
Evidence of Understanding (内容理解度)	1	2	3	4	5
Volume (声の大きさ)	1	2	3	4	5
Tempo (速さ)	1	2	3	4	5
Intonation (抑揚のつけ方)	1	2	3	4	5
Pronunciation (発音の正確さ)	1	2	3	4	5
Posture and Presence (姿勢や態度)	1	2	3	4	5
Gestures and Eye Contact (表現)	1	2	3	4	5

FINAL SCORE: _____ / 40

第3回英語暗唱大会アンケート

今後の英語暗唱大会のために、アンケートにご協力下さい。

差支えなければ、出場した部門と氏名の記入をお願いします。

(第1部・第2部)氏名： _____

- 1) 英語暗唱大会について、どのようにしてお知りになりましたか。
 1. ポータルを見て
 2. 学内ポスター・チラシを見て
 3. 友人に聞いて
 4. 教員に聞いて
 5. その他：()
- 2) アナウンスの時期はどうか。
 1. 適切であった
 2. 早かった
 3. 遅かった
- 3) 課題の数や種類はどうか。
 1. 適切であった
 2. 多かった
 3. 少なかった
- 4) 課題の長さはどうか。(第1部は約3分/第2部は約5分)
 1. 適切であった
 2. 長かった
 3. 短かった
- 5) 暗唱課題として、どのようなものに興味がありますか。(複数回答可)
 1. 詩や小説の一部
 2. 映画のセリフ
 3. 有名人のスピーチ
 4. 歌詞
 5. ニュース原稿
 6. 新聞・雑誌などの記事の一部
 7. その他 ()
- 6) 暗唱大会の前に、オフィスアワーを利用して練習をしましたか？(上限は2回)
 1. 2回利用した
 2. 1回利用した
 3. 全く利用しなかった
- 7-1) 6)で「2回利用した」「1回利用した」と答えた人に質問です。

1回の練習時間(20分)は適切でしたか？

 1. 適切であった
 2. 長かった
 3. 短かった
- 7-2) 6)で「1回利用した」「全く利用しなかった」と答えた人に質問です。

全く、あるいは1回しか利用しなかった理由は以下のどれですか。(複数回答可)

 1. そのような制度があるのを知らなかった
 2. 時間が合わなかった
 3. 他の人(先生や友人)を相手に練習する機会があった
 4. 1回の指導で十分だった
 5. 音声ファイルや動画・映画があったのでそれで十分だった
 6. 指導は全く必要ではなかった
 7. その他 ()
- 8) 暗唱大会へのご感想・ご意見などをお聞かせください

★アンケートへのご協力、誠にありがとうございました★

第3回英語暗唱大会 アンケート調査集計結果

設 問	1部	2部
1) 開催を知り得た方法		
1. SAINSポータルを見て	4	7
2. 学内ポスター・チラシを見て	1	0
3. 友人に聞いて	1	3
4. 教員に聞いて	6	1
5. その他	1	1
2) アナウンスの時期		
1. 適切であった	11	10
2. 早かった	1	1
3. 遅かった	0	0
3) 課題の数や種類		
1. 適切であった	11	11
2. 多かった	0	0
3. 少なかった	1	0
4) 課題の長さ		
1. 適切であった	11	11
2. 長かった	0	0
3. 短かった	1	0
5) 暗唱課題として興味があるもの(複数回答可)		
1. 詩や小説の一部	5	2
2. 映画のセリフ	9	5
3. 有名人のスピーチ	5	10
4. 歌詞	4	3
5. ニュース原稿	2	2
6. 新聞・雑誌などの記事の一部	1	0
7. その他	0	0
6) オフィスアワーの利用の有無		
1. 2回利用した	1	1
2. 1回利用した	2	1
3. 全く利用しなかった	9	9
7-1) 練習時間(20分間)について(オフィスアワーを利用した人に対して)		
1. 適切であった	2	2
2. 長かった	0	0
3. 短かった	1	0
7-2) 利用しなかった理由(オフィスアワーを利用しなかった人に対して)(複数回答可)		
1. そのような制度があるのを知らなかった。	1	0
2. 時間が合わなかった。	8	5
3. 他の人(先生や友人)を相手に練習する機会があった	3	6
4. 1回の指導で十分だった	1	0
4. 音声ファイルや動画・映画があったので、それで十分だった	3	1
5. 指導は全く必要ではなかった	0	1
6. その他	2(忙しかった)	0
回収率	100%	100%

感想・意見

【第1部】

- 普段、フランス語専攻のため、英語に触れる機会が少なくなっていました。この大会のおかげで、また英語に触れられて楽しかったです。
- 他の参加者のスピーチを聞いて、もっと頑張らなきゃという励みになりました。来年はもっと練習を重ねて出たいです。
- 昨年は全文覚えることもできずに大会に出場し、結果、途中であきらめてしまいました。今年はギリギリであったけれど、何とかとりあえず全文覚えることができ、友人、留学生に時間をとってもらったことにとっても感謝しています。本番ではまたもや真っ白になってしまいましたが、全部、自分で言い終えた達成感、友人たちの支えのありがたみをこの大会を通じ深く感じているところです。来年こそLAST CHANCEで頑張りたいです。Thank you very much!!
- 他の人のスピーチを聞いて刺激を受けました。また、自分よりも上手な方がいらっしゃって、くやしい反面、来年こそはリベンジするぞという気持ちになりました。もっと練習量を増やして、優勝を目指したいです。
- なかなかこのように英文を覚えて練習する機会がなく、人前でスピーチするのも初めてで、ものすごくいい経験になりました。また、友人のスピーチを聞いて、もっと頑張ろうと刺激を受けました。
- 昨年、初めて参加させていただき、今年も（申し込み遅れましたが、）参加させていただきました！2月にはフィジーへ行くので、現地の小学生や子供たちに Momotaro を聞かせてあげたいです。また、将来、先生になった時には、子どもたちに教えてあげたいです！貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。
- 正直、練習をしてこなかったのも、とても後悔をしています。でも終わると不思議と楽しいと感じたので、これから気を改めて英語を勉強し、来年もできれば参加したいと思いました。
- 緊張したけど楽しかったです。あんまり上手くできなかったのも、次はもっと練習してリベンジしたいです。
- 私の準備不足で、最後まで言えなかったのも悔しかったです。中高生の時はあがり症でなかなかできなかったのに、こうして参加することができてよかったと思います。来年はもっと早くから言う練習をして参加したいです。このような機会を与えてくださった皆さんに感謝します。ありがとうございました。
- 1番目だったのでとても緊張しましたが楽しかったです。今回は「ロミオとジュリエット」ということで、文章、セリフが意外に入ってこなかったのも大変でした。Thou などが多いなと思いました。暗唱という機会は滅多にないので、本当に良い機会だと思います。来年はもっとたくさんの人が参加することを心からお祈り申し上げます。
- 今後もこのようなイベントに参加し、語学力を極めたいとおもいました。

【第2部】

- 韓国語の暗唱大会も導入して欲しかった。
- 発表は緊張でしたが達成感があります。ありがとうございました。
- 正直、練習通りにできなかったのがとても悔しかったです。来年も出て、挑戦しようかなと思いました。
- 初めての経験だったので緊張しましたが、モチベーションが上がるような良い経験をさせていただいたので嬉しいです。
- みんなのスピーチが聞けて、とても勉強になりました！研究結果が気になるので、ぜひ教えてください。ありがとうございました。
- 昨年に引き続き参加することになりましたが、本当にとってもいい機会です！改めて語学を学ぶきっかけになります！
- この暗唱大会は、自分の西南生活を大きく変えてくれた最高のものでした。この大会に本気になれたし、自分の英語や意志を伝える力などを見返せたし、本当に本当にいい大会でした。自分のスピーチにあった言葉、“I want to represent possibilities”、“We are who we choose to be”が自分のこれからの教訓といますか、大切な言葉です。ありがとうございます。